

令和3年度 社会福祉法人 ル・プリ 事業方針

【法人本部】

昨年度に起こった新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、我が国を含む世界の国々で人々の生活が一変しています。当法人においても令和2年度は感染症対策に追われた一年であったと言えます。感染流行の第3波では、感染経路の追跡ができない市中感染数の増加、医療・福祉施設での集団感染の頻発などにより、都市部での医療体制が崩壊目前の状況となりました。昨年この時期には、夏場での終息を迎えるのではないかと観測もありましたが、その夏場に第2波を迎えてしまい、秋以降も各事業所・施設の行事を中止せざるを得ず、「with コロナ」の社会を見据えて行かなければならない事態となってきました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、法人の活動を停滞させることなく、安全・安心な事業運営を行ってまいります。法人本部としては、人材確保に向けての取り組みが引き続きの重点課題であり、これまで事業本部単位で取り組んできた職員採用の在り方について、法人本部を窓口とし、多様な人材を確保していくことにつなげていきたいと考えています。窓口をそれぞれの事業本部から法人本部に一本化するうえでの課題整理を行い、令和4年度の採用活動から実施をしていきます。また、採用後のOJTにおいて必要になる管理職等のマネジメント力向上のための研修を拡充し、既に実施しているくるみ会事業本部の他、試行会事業本部、杜の会事業本部においても実施していきます。研修にあたっては昨年くるみ会事業本部において実施した「職員満足度調査」を3事業本部で実施（くるみ会事業本部は前年度に続き2回目、試行会事業本部、杜の会事業本部は1回目）し、各職場の現状を把握したうえでの研修とすることでその効果を高めていきます。法人の運営自体は余裕のあるものではありませんが、職員の職場への満足度を高め、就労が継続していくことで支援のスキルも向上し、結果として利用者満足度が上がっていくという循環をつくりだしていく必要があります。法人では昨年の夏に全事業所の現況及び課題の洗い出しのヒアリングを行いました。各事業所の状況と同一事業間での比較を行い、効率的な運営や課題の認識を共有することが出来ました。この取組みを今年度も行い、各事業所においてより効率的な運営を考えていくことを責任職には求めていきます。

冒頭で触れたとおり、コロナ禍という中で、今年度も法人活動に取り組んでいくことになります。各事業本部においては、感染症対策をしっかりと行い、私たちが支援を行う高齢者、障害者、子どもたちが孤立することなく、地域社会の中で暮らし続けられることが重要です。児童支援部門では、成人期対応へと移行する障害児や社会人として巣立つ子どもがいます。一方で新たに暮らし始める子どももいます。いずれもしっかりと支援を行っていきます。高齢者支援部門や障害者支援部門においても支援力を高め市民ニーズに応じて行きます。

最後になりますが、経営の視点での財源の確保、支出の点検をこまめに行い、無駄をなくし、効率的な法人運営を通年で実施してまいります。

【くるみ会 事業本部】

くるみ会事業本部では、一向に終息の兆しの見えない新型コロナウイルス感染症が蔓延する中であって、昨年度から引き続き利用者の健康・安全に十分に配慮しながら、利用者一人ひとりの生活の質の向上に取り組み、利用者はもとより地域からも信頼される福祉拠点としての役割が果たせるよう、以下の方針に沿って今年度の運営を進めていきます。

子どもから大人へ、過齡児を出さずに利用者一人ひとりのライフサイクルに応じた適切な支援を計画的に取り組んでいくために、成人期移行会議を中心として、事業本部の垣根を超えた円滑な移行を推進します。

また、14か所になった「くるみホーム」を大きく2つに分けて、「ホルツハウゼ」「くるみ学園成人」「野のゆり6次舎」「くるみの森」との連携強化を図るとともに、それぞれに管理責任者を配置し、地域において様々な障害や生活課題を抱えている利用者のニーズに応えるべく支援体制の強化に取り組みます。

「地域生活支援室」では、昨年度の実績を踏まえ、地域を意識した相談支援に取り組み、地域における福祉拠点としての一翼を担います。

「ポート金が谷」では、国及び横浜市の施策の動向を意識しながら、社会的養護の児童への自立支援に積極的に取り組むとともに、「サウウエスト金が谷」を中心としたアフターケアにも取り組んでいきます。

泉区に所在する「ひかりの園」では、施設の大規模修繕を図り、利用者にとって利用しやすい環境を用意します。神奈川区に所在する「光センター」とともに、一層綿密な連携と相互協力を推進し、多様な市民のニーズを受け止めそれに応える福祉実践の展開を目指していきます。

利用者の複雑化する障害に適切な支援を提供していくために職員に向けての研修体制の強化を図り、職員一人ひとりの支援力の向上を図ります。また、今年度も引き続きコンサルテーションによる組織課題の抽出と具体的な課題解決に取り組み、管理職等のマネジメント力の向上を図り、現場と管理運営が一体となった質の高い支援の構築を目指します。

災害発生時に、迅速かつ円滑に福祉避難所としての役割を果たすことができるよう、旭区役所や地域、関係機関等との連携を図りながら、規模の見直しや職員に対する研修等についての検討を進めます。

【地域生活支援（計画相談）】

短期入所や入所希望等、地域からの多様な利用者ニーズに応じていくため事業本部内施設を有効に活用できるよう更なるコーディネーター力の向上を図ります。また、提供するサービスの幅を広げていくため、各区基幹相談支援センターや自立支援協議会、法人内施設との連携を強化し利用者の地域生活実現に向けた取り組みを行なっていきます。

新たな試みとして以下の2点を他部署との連携の下、実施していきます。

- 1 児童施設に在籍する子どもたちの進路選択について早期から相談員の介入を図り、

より円滑に成人期への移行を行なえるよう計画相談開始に向けた準備を進めていきます。

- 2 近隣地域に住まれている障害をお持ちの方たちのニーズを調査し、その充足が図れるような活動とサービスを検討します。情報提供を行ないながら地域の障害福祉の拠点となるよう努めていきます。

【くるみ学園児童（福祉型障害児入所施設）】

障害児入所施設は、その在り方について国レベルでの見直しの議論が進められています。国及び横浜市における施策動向を意識しながら、多様化複雑化する子ども一人ひとりの障害や生活課題に即した自立に向けての支援を展開するために、コンサルテーションやスーパーバイザーの導入等による支援力の向上及び支援体制の強化を図ります。併せて支援記録ソフトの導入等業務の合理化と省力化を進めます。加えて、子どもの健康・安全に十分に配慮しながら、緊急一時保護や体験利用等に取り組み、地域における福祉拠点としての一翼を担っていきます。

【くるみ学園成人・ホルツハウゼ（施設入所支援）】

成人部においては、入所施設の全利用者が地域移行の対象者として地域福祉を推進していきます。移行にあたっては細かなアセスメント、地域移行アセスメントシートなどを活用して取り組んでいきます。特に強度行動障害、加齢に伴う医療面のケアに対しては、外部機関のコンサルテーション、医師や看護師における専門職とも連携し、地域における社会資源なども開拓していきます。また施設内の住環境整備、日中活動内容の再編成も実施していきます。地域からのニーズが増加傾向にある短期入所については、区の相談機関、行政とも利用状況の把握を情報共有し、利用にあたっては地域生活支援室とも連携していきます。職員においては、職員研修の充実、支援の実践報告会などを通じて、客観的、科学的な視点をもって支援向上に取り組んでいきます。

【野のゆり6次舎（生活介護）】

入所者のグループホーム移行やくるみの木の閉鎖に伴い、大幅な定員増が予定されています。円滑に受け入れを行い、安定した活動を提供していきます。

野のゆり学舎、野のゆり6次舎の異なる作業種の中から、利用者の適性を踏まえて活動内容を提示し、一人ひとりに合わせた支援を行うことで、充実した日中活動の提供を進めていきます。引き続き職員研修や事例検討、支援アドバイザーの活用などで研鑽を積み、支援の質を高めていきます。

生産活動に関しては、製菓グループを新たに作り、魅力のある菓子を製造していきます。その他のグループも計画的な活動を展開し、さらなる製造の安定化を図ります。また、商品の販売先を開拓し、販売を強化していきます。

状況を見ながらではありますが、喫茶営業を再開し、地域へ発進する場、近隣との交流の場として活用していきます。

【くるみの森（生活介護）・くるみの木（就労継続支援 B 型）】

くるみの木については、環境面から安全性を優先し、かつ利用者支援を充実させていくことを目的として、今年度の上半期をメドに閉所します。利用者の活躍の場が継続できるよう、くるみの森、野のゆり 6 次舎での活動提供を行い、過ごしやすい空間で活躍できるよう利用者一人ひとりに寄り添いながら支援を行っていきます。ご家庭や各グループホーム、入所部門等とも連携を密にとり、利用者一人ひとりの状態把握に努め、適性に合った作業を提供していきます。

喫茶部門では、外販売時にチラシ等を配布したり、看板や旗等も工夫をするなどして入りやすい空間を作り、お店の認知度を高めていくとともに来客数を増やしていきます。

製造部門では新商品の開発を行いながら品質の向上と商品の見直しを行い、工賃の向上を目指していきます。また、作業工程の見直しを行い、利用者のワークライフバランスにも取り組んでいきます。

他の作業所や地域ケアプラザ、特別支援学校等関係機関との連携に留意しながら、地域生活支援部門との連携のもとで、実習生の受け入れにも積極的に取り組んでいきます。

職員においても、一人ひとりの健康に留意しながら普段から意見が言い合えるような職場環境を整備していきます。業務の見直しに着手し、効率化を図るとともに、さらに利用者支援に重点を置くことが出来るよう、一人ひとりの支援力の向上とチームワークの強化が図られるよう研修等の充実に取り組んでいきます。

【くるみホーム（共同生活援助）】

令和 3 年 3 月、高等部 3 年生の移行先として、事業本部施設の近隣に第 13、第 14 くるみホームを設置しました。バックアップである入所部門と隣接するメリットを最大限に活用し、本部施設と一体で運営できるようにしていきます。この設置により成人入所施設定員 50 名に対しグループホーム定員は 70 名となります。このことを踏まえ、各グループホームにおいては、地域生活支援部門や各日中活動支援部門、入所部門との更なる連携強化を図り、夜間時の生活支援と日中活動支援に一体的に取り組んでいく細やかな利用者支援の体制を構築します。

利用者支援においては、一人ひとりの日常生活や余暇活動のニーズを把握し、支援や活動に反映させながら、より充実した地域生活を営むことができるよう支援をしていきます。グループホームに移行したばかりの若年層の方には、日中活動等の関連機関とも相談しながら適切な社会生活が営むことができるよう支援します。また、高齢期を迎え一層介助を要する方には、家族、医療機関等とも相談しながら QOL の維持、移行先の開拓等の支援に取り組んでいきます。

【ポート金が谷（児童養護施設）・サウウエスト金が谷（自立援助ホーム）】

ポート金が谷では子どもの最善の利益を最優先に考え、子ども自身が安心を感じられる生活を送れるようにしていきます。大人との関係性の心地よさを感じながら、他者から愛され大切にされているという実感を得られるよう支援をしていくとともに、他者を思いやる気持ちを育み、それぞれを認めあえる力を築いていきます。また施設内外での様々な経験を積み体験することで自己肯定感を高めていけるようにします。

自立援助ホーム「サウウエスト金が谷」は設置 3 年目を迎えました。昨年度はポート金が谷を卒園した子どもばかりではなく、他児童養護施設卒園児や家庭から措置された子どもなどを受け入れ、職員も共に学び成長をした一年でした。おおむね 2 年の利用期間中、生活面への指導（金銭の管理状況）などについて、注意深く把握し指導していくとともに、自立生活に必要な生活スキルや社会性の涵養に努めます。また、サウウエスト金が谷から自立していった青少年のアフターフォローとして、定期連絡等を行い、円滑な社会生活が営めるよう支援をしていきます。

自立支援計画については、子どもや青少年が将来の生活についてイメージが持てるように策定し、夢や希望の実現に向けてのアドバイスやその方向性を探っていきます。また、高齢児や卒園が近い子どもに対しては、進学や就労及び自立生活についてイメージが持てるような支援を行い具体化していきます。

地域においては、子育て短期支援事業であるショートステイやトワイライト、休日預かり事業を継続して行っていくとともに、地域住民や教育機関、行政機関、医療機関などの専門機関との連携を図り、子どもが地域の中で育まれるように努力するとともに、そのためのスキル向上を目指し、内部及び外部の研修を充実させ、児童福祉の動向に目を向けられるようにしていきます。

記録類については、昨年度に導入したシステムをさらに効率よく運用できるよう努力していくとともに、専門分野の記録（医務管理、心理、栄養）と日々の記録やスケジュール、自立支援計画等を連動させ子どもの全体像を理解するための一助としていきます。

【ひかりの園（生活介護）・ひかりホーム（共同生活援助）】

開所 28 年を迎え、老朽化している建物の大規模改修工事を行ないます。それに伴い、利用者が社会とのかかわりに関心がもてるよう、具体的な活動を新たに提供します。

利用者・保護者が安心して施設を利用できるように、一人ひとりの声に耳を傾け、課題を共有し、解決を目指します。更に事業本部や他の障害福祉サービス事業所と連携し、利用者の安心安全を支えます。

感染症対策を講じながら、福祉教育機関や地域の団体等、リサイクル活動や販売活動を通じ交流も積極的に取り組みます。季節感のある食事の提供に努めます。

【日中活動支援】

利用者が自ら意欲的に通所し、充実感を得られる活動を提供します。利用者の思いや願いに寄り添い、活動や体験を通し、安心した雰囲気づくりをします。また、行政や他の事業所と連携協力して支援を行います。

作業活動は利用者一人ひとりが役割を担い、達成感を得られるよう、個々の特性や個性に合わせます。また、作業以外にも様々なプログラムを提供し、季節感を感じられる活動に取り組みます。

ひかりホームのバックアップ施設としてグループホームと連携し利用者が日中、夜間1日を通してどちらでも安心して安定した生活ができるように支援します。

【グループホーム】

利用者が快適な生活を送れるよう、環境整備に配慮します。また、日中活動施設や家庭との連絡も密接に行って行きます。季節感のある行事やガイドヘルパーの利用も積極的に行います。地域の行事に参加し、交流を深めて行きます。

【横浜光センター（生活介護・就労継続支援 B 型）・みなと（共同生活援助）】

横浜光センターは東神奈川駅に隣接し、横浜市所有の建物において事業を行い、グループホームみなとのバックアップ施設としての機能も担っています。就労継続支援 B 型施設として個別支援計画に基づき総合的な利用者支援を担いながら、計画に沿った支援ができているか点検と確認を行っていきます。主に視覚に障害のある利用者が中心であることから、働きやすい環境作りを心がけ、自主製品の販路拡大や、点字作業の新規業務を拡大していきます。感染防止対策を取りながら、例年以上に安全面に注意して運営を行っていきます。職員研修については、本部とも相談しながら計画的な実施を行い、職員のスキルアップをめざします。

【日中活動支援】

目標工賃を設定し、これに近づけるよう努力していきます。下請け作業の相手先企業開拓、食品部門における新商品の開発、新規販路拡大を進め、同時に商品の質を向上させます。また作業だけではなく、様々な経験を積むことで豊かな生活を送る事ができるよう、工夫をしながら支援を行っていきます。

また、高齢になっても利用したいという方が多く、サービス提供の仕方も考えていく時期に来ています。引き続き、意向調査を行い、利用者の思いを大切にしながら支援を行います。

【グループホーム】

男性ホームと女性ホームとの一体的な支援を継続します。行事や外出など難しい状況ですが、感染防止対策を取りながら、できるだけ利用者の意向に沿った活動を考えていきます。個別の生活支援では部屋の掃除・洗濯や入浴など、入居者の衛生面にも配慮した対応を行い、また家族や地域関係機関、日中活動施設とも連携しながらより充実した支援を行

っていきます。

【試行会 事業本部】

横浜市北部に位置する「試行会事業本部」は、緑区、青葉区、都筑区を中心に障害のある方や高齢者及びその家族の支援のほか、泉区での障害児支援施設、鶴見区での保育園の運営を行います。また、試行会は発足の時から保護者の願いに思いを寄せ、同時に障害のある当事者に親身になって寄り添い支えることを、事業を行なう上の指針として掲げてきました。これまでのこうした蓄積を引継ぎ、安定した質の高い支援を展開していきます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各施設においては、利用者の方々の旅行や夏祭りなどの行事がすべて中止となり、静かな生活を余儀なくされましたが、2021年度は、徐々に日常の生活を取り戻すべく、各施設取り組んでまいりたいと考えています。その中でもワーク中川では改修工事も終了し、開所20年を迎え利用者の方々、職員ともども行事を企画したいと思います。また、ビーンズ保育園では、昨年度園庭整備が実施できなかったため、今年度、再度計画してまいりたいと思います。さらに、奈良地域ケアプラザにおいては、障害児を対象とした放課後等デイサービスを3月に開始しており、より地域のニーズに応えていきたいと思っています。

【ぼらいと・えき】

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | 福祉型障害児入所施設では、変化しつつある利用者像にも柔軟に応じられるよう支援の検証と工夫を重ね、子どもたちへ安全で安心の場を提供します。 また、4ユニットを活用できるよう職員体制を確保します。 成人部門は、2か所グループホームの安定した運営とともに、利用者が日中活動に能動的に参加できるように、活動内容の検証と活動科目の開拓を行います。職員においては、障害理解を深めるとともに客観的・科学的見地で支援に当たれるよう研修等を取組みます。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【青葉メゾン（ダ・カーポ、ブリランテ）・ワークステーション】

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 相談部門 | 障害のある方やその家族の意向や希望を最大限に尊重し、当事者が抱える課題解決に向け、質の高い相談支援を提供します。利用者の方々の年齢層が高くなるに従い、医療的な配慮を要することが増えるため、近隣の病院や協力医とも連携し、より適切な相談を行なえるよう職員研修等を実施していきます。 |
| 支援部門 | 障害のある方やご家族が安心して日常生活を営めるよう、医療、栄養、相談等、事業所内の様々な機能と連携しながら支援を行います。作業活動では、新規作業の開拓を行うとともに、既存の商品の販売先を開拓し、売り上げ増を図ります。 |

| | |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>奈良障害者ショートステイセンターでは、多様な利用目的に対応するため日々の活動の工夫をし、利用者の方々が安心、快適に過ごせるよう運営していきます。</p> <p>障害者自立生活アシスタント事業と並行する形で、自立生活援助事業を開始しています。新規の利用者の増に努め、個々のニーズに応えるように事業を実施してまいります。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【十日市場ワークステーション・あおばのギャラリー】

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>特別支援学校卒業者や地域の在宅の方等の新たな利用者の受け入れを積極的に行ってまいります。また、併設する「あおばのギャラリー」は、障害児・者の芸術文化活動支援の横浜北部地域における中核的役割を果たすべく、今年度も近隣の保育園や事業部内事業所と連携し、絵画展の開催や講師の派遣を行い、文化活動の充実を図ります。</p> |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【障害者グループホーム】

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>青葉メゾン、ワーク中川、ぽらいと・えきをバックアップ施設として、現在19ホーム、定員92名で運営しています。地域での暮らしを充実させるべく、利用者の方々のニーズを汲み取り、適切な支援を実施してまいります。</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【すてっぷ・あおぞら】

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>「あおぞら」「すてっぷ」では、感染予防対策を徹底し、地域の方が安心して施設やサービスを利用できるよう努めていきます。地域活動ホームの機能を生かして、地域の資源と連携して住みやすい地域作りやネットワーク作りを行います。また基幹相談支援センターを中心に地域生活支援拠点の整備を進めます。地域活動ホームとしての拠点機能を充実させていきます。自立支援協議会を運営して更なる地域との連携強化を図ることで、地域全体でサポートできる仕組み作りを行います。地域課題の抽出や課題を整理し、解決できるよう進めます。多様なニーズに応えられるよう、支援職、相談職共に研修・学習等を通してスキルアップを目指します。</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【ワーク中川】

| | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>「ワーク中川」は、大規模改修を終え、作業場の環境整備を行い、利用者の方々と職員が新たな気持ちで活動に向かえるよう工夫をしております。</p> <p>また、「しゅしゅ・あゆみが丘店」ともども「日中活動支援」「生活支援」「健康・医療支援」「相談支援」の四本を柱に、利用者の将来にわたる生活全般を</p> |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>視野に入れた支援を行っていきます。その支援に向けて、研修・学びを通じた職員のスキルの向上、地域の様々な機関との連携、協力体制の構築を行います。さらに、利用者、職員共に気持ち良く生活・活動を行えるよう、安全・清潔で使いやすい環境づくりや、利用者・職員の体調管理として、検温等の健康観察や手洗い等を徹底します。本人・家族が気軽に何でも相談ができ、安心して生活ができるような雰囲気づくりを行います。</p> <p>2021年度には新規利用者2名を受け入れます。利用希望者の受け入れ枠の拡大の為、利用定員増の検討、今後数年間の中での新たな作業場の創設を検討します。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【奈良地域ケアプラザ、青葉台地域ケアプラザ】

| | |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>支援部門</p> | <p>人が集うというこれまでのケアプラザの図式は、コロナ禍によって破壊されました。積極的コミュニケーションではなく必要最小限のコミュニケーションで、心身を維持しながら生活していく方法を考える、これが次年度のケアプラザの大きな課題であると考えます。</p> <p>(1) デイサービス事業</p> <p>奈良地域ケアプラザにおいて、新たに放課後等児童デイサービスを開始いたしました。発達に課題のある子どもたちが安心して地域で生活できるよう障害部門の相談部門の関わりを得ながら専門性をもち支援します。また、登録者の半数が90歳に近い高齢者デイサービスにおいては、家族や他の介護サービス事業所と連携をとりながら感染の予防に努め心身の機能の維持をはかってまいります。</p> <p>(2) 居宅介護支援事業</p> <p>利用者の心身の状況等に応じ、ご本人・ご家族の意見を取り入れながら、在宅での自立した生活を少しでも長く続けられるよう支援します。また、介護事業者や医療機関との連携を積極的かつ丁寧に行い、利用者やご家族が困った際、対応できるサポート体制の構築を目指します。安心して生活できる支援体制づくりと安定した経営を目標にした収益の改善を進めてまいります。</p> <p>(3) 地域包括支援センター事業</p> <p>コロナ禍において縮小または未実施となった介護予防事業について、従来通りの開催を予定しつつ新しい在り方を検討し続けたいと思います。奈良・青葉台両ケアプラザの区域内に生活するそれぞれ約3,000人の75才以上のご高齢者のうち3分の2以上の方が介護保険制度を利用せず生活されている、その皆さんの生活の支えについて謙虚に学び、地域に向けて発信していきたいと思います。また、高齢者虐待や成年後見制度、家族間調整等、より複雑化していく相談に向き合い解決に引き続き努めてまいります。</p> |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>(4) 地域活動・交流部門事業</p> <p>地域の課題に即した事業を展開します。今後も続く感染症については、地域住民の理解を得ながら、複合館であるという意識をもち、徹底した感染症対策を続けてまいります。また、子どもたちとその保護者に目を向けたいくつかのアプローチを行い、そこから生まれる活動を支援してまいりたいと思います。地域の学校との連携は両ヶアプラザにおいて継続した課題です。</p> |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【ビーンズ保育園】

| | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>子どもたち一人ひとりの個性を尊重するとともに安全で安心な環境を整え、お散歩や遊びなどの日常活動や食育の充実により、保護者からの信頼を得つつ子どもたちの健やかな成長を支えます。また、地域の方々のニーズに応じた子育て支援をすすめるため、一時保育、施設開放、育児講座、絵本貸出など開かれた保育所づくりを行ってまいります。</p> |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【杜の会 事業本部】

2020年1月より蔓延している新型コロナウイルス感染症は未だ終息せず、感染の恐れは今年度も続くと思われまます。その影響は、感染拡大予防を実施する上で各事業の活動を制限し、各種事業を利用する児童・障害者・高齢者など、支援が必要な方々や施設を拠点に活動する地域の福祉保健活動の支援に多大な影響を及ぼすことが予測されます。引き続き感染拡大予防に最大限の配慮を払いながら各種事業を実行していきます。

誰もが住み慣れた地域でその人なりの生活ができるよう、人と人との関係性を豊かにし、互いに顔の見える関係を築くことが私たちの使命と考えています。感染症予防には、直接的な人と人との接触を制限することが求められますが、今一度、事業目的を見つめなおし、理念や方針を基に、社会情勢や地域環境の状況に応じて生じる、様々な課題やそこに暮らす社会的な支援が必要な人々のニーズを捉え、それに対応する柔軟な取り組みを創造することを目指します。

また、各種事業の運営を確実に遂行していくために、業務の標準化、計画化を長・短期的にすすめ組織的な取り組みを計画し実行していきます。また、職員の働きやすい環境を整えることと、職員一人一人の能力が発揮できるように研修の充実にも努めていきます。

防災対策においては、感染症の対策も考慮して訓練の実施を含めたマニュアルの整備などに取り組んでいきます。

【SELP・杜】

| | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>令和2年度は、新型コロナウイルスによる影響で、作業や余暇において様々な制約を受けて活動を縮小せざるを得ない1年となりましたが、利用者へ寄</p> |
|------|-----------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>り添い、また地域の方との繋がりを大切にし、十分な対応をしながら生産・販売活動をできる範囲で続けてきました。引き続き様々な対策を講じながら食の安全を意識し、お客様に喜んでいただける商品を提供していきます。</p> <p>令和3年度は新規利用者7名を迎え、162名の利用者となります。コロナ禍であっても、利用者が地域の中でその人らしく、安心して活動ができるようご家庭や医療、関係機関との連携を取りながら支援します。また支援の質の向上のため、内部研修を充実させ人材の育成を進めていきます。</p> <p>職員体制がしっかりととれた中で充実した活動を行うため、月2回の土曜日の活動を月1回に変更します。三密を防ぎ、余暇活動の充実を図るため、青年学級のクラブ活動は平日、土曜日に分散して行うこととします。</p> <p>令和4年度の横浜市の法外費収入の激減のため、部門編成や作業の見直し、適正な職員配置に引き続き努めます。</p> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【障害者グループホーム】

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p>新型コロナウイルス感染症の蔓延は、暮らしのあり方を大きく変え、入居者と職員どちらにも心理的・身体的な負荷を与え続けています。支援的にはこれまでにない工夫が求められ、組織的には感染症対策業務への集中と、それによって崩れたバランスの調整に追われています。この状況を受け、次年度も組織力の強化を最重点目標とし、「12ホーム1チームの組織づくり」をテーマに、各ホームで個別に行われる支援への組織的なバックアップ、相互のフォロー体制を築いていきます。</p> <p>状況が落ち着いた時には、行動抑制・管理強化の流れを一度止め、権利擁護の原則に立ち戻り、入居者ひとりひとりが思い描く暮らしを実現できるように努めていきます。また、令和4年度の新ホーム設置に向けて準備を進めていきます。</p> |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【杜の地域生活支援室】

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援部門 | <p><ASSIST・杜（ガイドヘルパー、ホームヘルパーの派遣）></p> <p>利用者・ご家族との信頼関係の維持・構築を大切にし、余暇の充実と生活の安定という方針に沿った質の高い支援を目指します。令和3年度はコロナの影響がある中での事業継続に、必要な実績（事業収入）と利用者・ヘルパー双方の安全に配慮した派遣業務を考えています。</p> <p><相談支援事業所SELP・杜（指定特定相談支援事業）></p> <p>ご本人の希望を伺い実現していくために、支援機関と連携していきます。仕事や暮らし、余暇の場面で自分らしく過ごせるようにサービス等利用計画を作り支援していきます。新規利用者を受け入れ、1人でも多くの方に計画</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>相談を利用してもらえるように、体制を整えていきます。</p> <p><知的障害者自立生活アシスタント事業、自立生活援助事業></p> <p>障害者自立生活アシスタント事業の強みである本人に合わせた支援を活かし、地域で単身生活をしている方や孤立している方の生活が豊かになることを目指します。そのためにも相談支援機関との連携を深めることで、地域ニーズを把握し、必要としている方と繋がっていきます。また、生活支援センターと連携して、普及啓発活動を行います。</p> |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【中野地域ケアプラザ・日下地域ケアプラザ】

| | |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>支援部門</p> | <p>横浜型地域包括ケアシステムでは、ケアプラザを中心に地域の特性に応じたきめ細やかな取組み、地域づくりが掲げられています。包括支援センターの専門職による個別支援、生活支援コーディネーターを中心とした地域での社会資源の開発、地域交流コーディネーターを中心とした地域づくりを推進するとともに、医療との連携を更に深めていきます。特にコロナ禍において希薄化した住民同士のつながりと、停滞している地域活動について活性化させていくことが現在の重要な課題であり、部門間の連携をより高め住民主体の地域の助けあいの仕組み作りに継続して取り組みます。</p> <p>◇ 通所介護事業</p> <p>寝たきりや閉じこもり、介護が必要な状態にならず、その人なりの在宅生活が続けられるよう日常生活動作を基本とした介護を実践します。機能訓練においては外部のリハビリ専門職とも連携し、個別の目標設定と実践に取り組み支援の充実を図ります。新型コロナウイルス感染症においては、引き続き感染予防対策を徹底し、利用者が安心して利用できるような環境を整えるとともに、レクリエーションやアクティビティを充実させ、制限のある中でも生き生きと楽しく過ごせる時間を提供できるよう努めます。</p> <p>◇ 居宅介護支援事業</p> <p>利用者の心身の状況などに応じ、可能な限り住み慣れた地域で生活を続けられるよう支援を行います。行政、医療をはじめとするチームケアを推進すると共に利用者を支えるネットワークの構築に努めるほか、休日や夜間帯でも不安なく安心して生活できるよう24時間の連絡体制を確保します。</p> <p>◇ 地域包括支援センター事業</p> <p>地域の身近な総合相談窓口として、いつまでも住みなれた地域で生活が継続できるように、一人暮らしや高齢者世帯の方の支援や介護を中心に、虐待や成年後見制度等に関する相談を受け解決に努めます。また多様な問題に対し地域ケア会議を開催し、関係機関とともに連携・協働し解決する地域包括ケアシステムを構築します。また生活支援コーディネーターと連携し、出前講</p> |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>座も含めて地域に元気な高齢者を増やすため介護予防事業を企画・実施します。日下地域ケアプラザに於いては、日野団地の高齢者等の入居者に対して在宅生活支援を支援するため「生活援助員派遣事業」を受託し相談・見守り・緊急時等の対応を実施します。</p> <p>◇ 地域活動・交流事業</p> <p>来館者とのコミュニケーションを大切に地域の魅力と課題を把握するとともに、地域が主体的に課題の解決に向けた取組みができるよう支援していきます。地域福祉保健計画の推進についても区役所・区社協と連携しながら、事務局として住民との協議の場を継続します。また将来の福祉人材の育成も視野に入れ、地域のこどもたちが学齢期から障害や認知症等への理解を深め、地域福祉に関心を持てるよう、学校と連携し年齢に応じた内容の福祉教育を行います。</p> |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【小規模多機能事業所「晴」・らいふけあ中野】

| | |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>支援部門</p> | <p>地域で在宅生活を続ける要介護者を対象に「通い」「訪問」「泊まり」の支援を組み合わせ個別の支援を提供します。特に中重度の介護が必要な方や認知症の方などへの支援においては、サービスを分断することなく馴染みの関係がある職員が継続して支援することができることから、家族の介護の負担軽減も含めて取り組んでいきます。地域密着型の介護サービスとして、2ヶ月に一度、利用者、家族、地域関係者、区、地域包括支援センターとで運営推進会議を開催しますが、新型コロナウイルスの感染拡大予防から必要に応じてリモートや SNS を活用します。今後もコロナ禍の影響に伴った運営及び、消毒の徹底を継続して行っています。</p> <p>らいふけあ中野については、支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域でその人らしく自立した在宅生活が維持・継続出来るよう、できるだけご本人様のご意向に添ったサービスを提供します。またサービスの質の向上のため、多職種と連携を取りながら、職員・登録ヘルパーの研修の充実を図るとともに、ヘルパーが「やりがい」や「達成感」を感じられるような派遣調整をします。</p> |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【かさまの杜保育園・杜ちゃいるど園】

| | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>支援部門</p> | <p>子ども達には幸せに過ごしてほしいという大きな願いを持ち家庭と協力し、子ども達に豊かな経験ができる場をつくります。保育では子ども達にとっては「社会」である異年齢集団を生かし、子ども主体、協同、探求を意識し展開していきます。時代が変わり、またコロナ禍もあり、新たな保育、支</p> |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>援が求められるようになり、自ずと職員みんなで考え合う時間が増えたことを生かし、子ども理解をすすめ、保育が深まるように学び合っています。さらに2園での語り合いの場を持ち、お互いの実践を振り返ることで保育士の質の向上を目指します。また保護者や近隣、障害者・高齢者施設、小学校などとも交流し分断が進む中ですが、声や気持ちを意識してかけることで繋がっていきけるようにし園に対しても理解していただけるようにしていきます。</p> |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【杜の郷・子ども家庭支援センター・ふれあい塾】

| | |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>支援部門</p> | <p><杜の郷></p> <p>様々な事情や背景を持った子ども達が、安心して安定した生活を送ることができるよう計画的な運営を進めるとともに、心安らぎ英気を養う家・社会的養護の拠点であるよう努めます。その中で職員との関係性を築き、深め、家庭生活、地域生活の体験を通して、人とかかわる力、生活力や社会性を高めていきます。子ども達が施設を退所後も、地域の中で自らが暮らしていく事が出来るよう支援していきます。また、自治会や地区社協を始め、地域の関係機関と連携し、子ども達の地域での生活を保障すると共に、地域の社会資源として、この地域にあってよかったと思われる施設・地域の子育て支援の一翼を目指します。</p> <p>開所後13年目を迎え、18歳で施設を卒園して自立生活を始める子ども達、家族のもとに帰っていく子ども達等、施設を退所した子ども達への支援ニーズが高まっています。社会人としての生活を安心してスタートし、継続できるように、また、困ったことが起きた時にすぐに相談し対応できる等、退所後の子ども達の支援のシステム・退所後支援を更に強化していきます。</p> <p>また、建物には劣化が生じている箇所もあります。また設備や備品類の故障や破損も増えています。計画的に建物や設備、備品類等の修繕や改修、交換や購入等に取り組んでいきます。</p> <p><子ども家庭支援センター></p> <p>身近な相談機関として、親身に相談に耳を傾け、その家庭にとって必要な支援につなぎ、支援が有効なものになる様に子どもとその家庭を支えています。泉区内の児童と家庭をめぐる課題を認識して、積極的に関係機関、相談支援機関との連携・協働関係の確立とネットワークづくりに努めます。また、相談支援の充実と共に、短期支援事業の体制を確立して、預かり（ショートステイ・トワイライト・休日預かり）について必要に応じた対応をしていきます。地域での子育ての取り組みを支持し、他の支援機関（者）とともに</p> |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>に地域の子育てネットワークへの参加を継続します。</p> <p><ふれあい塾（寄り添い型生活支援事業）></p> <p>区内の小学生、中学生を対象として、今年度も従来の方針を引き継ぎ、一人ひとりに寄り添うことを大切にしながらも、学習支援を軸として子どもたちに学ぶこと、学ぶことの楽しさを伝えていきます。特に中学生については全員高校への入学を目標に取り組んでいきます。また、高校受験には少なくとも数年の学習期間が必要である事、小学校から学習習慣を身に付けていく事が大切である事を関係機関等に周知し、通塾開始年齢を引き下げていく努力を引き続き行っていきます。</p> <p>上記の活動を通して、子ども家庭支援センターや諸機関と積極的に連携し、子ども及びその家庭の生活支援活動を展開していきます。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|